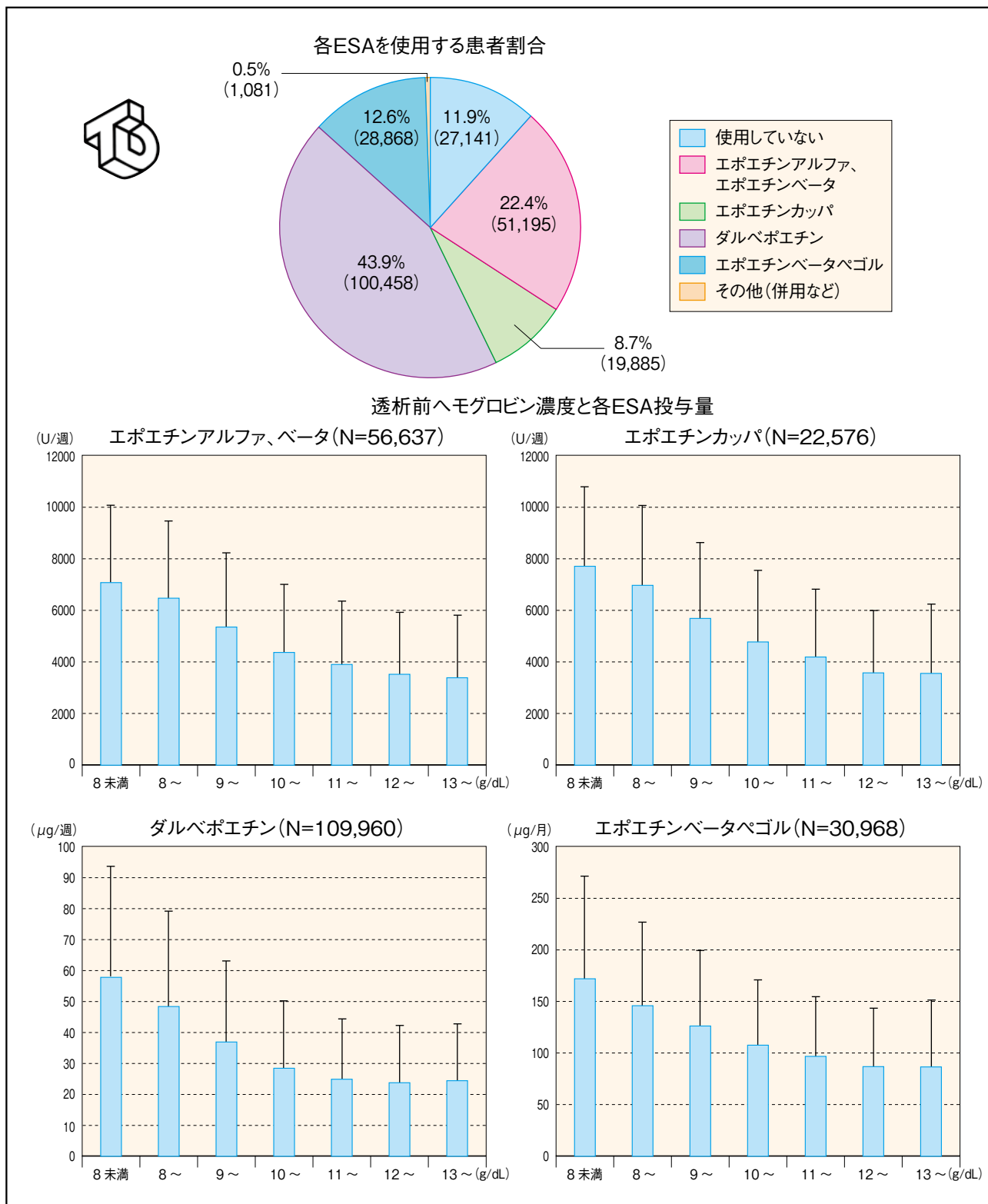


(5) ヘモグロビン濃度とESA投与量 (図表49)



解説

集計対象：透析患者全体

2012年末の各ESA使用割合を示す。異なるESA製剤を併用している患者は非常に少ない。また全くESA製剤を使用していなかった患者は11.9%であった。何らかのESA製剤を使っている患者では、ダルベポエチン（ネスプ®）、エポエチンアルファ、ベータ（エスポー®、エポジン®）、エポエチンベータペゴル（ミルセラ®）、エポエチンカップ（エポエチンアルファ BS注®）の順に使用頻度が高かった。ESAの種類に関わらず、Hb濃度が低いとESA投与量が多いという関連が見られた。各ESAで単位が違うことに留意されたい。